

阿南・牛岐城跡公園

「恋人の聖地」アピール

富東高生 アイデア 商店街が関連商品販売

阿南市富岡町の牛岐城跡公園が「恋人の聖地」に選ばれたのを受け、富岡商店街協同組合（山本史夫理事長、六十四店）の各店舗が関連商品を開発し発売する。商品のアイデアは富岡東高生から提供を受け、商店街の活性化を目指す。

「恋人」をキーワードに、空き店舗が目立つ同商店街を活気づけたいと山本理事長が商品開発を企画。昨冬から、光のイベントに協力してもらっている同校ビジネス研究同好会に相談し、実現した。

第一弾として、商品を開発・販売するのは食品関係の三店舗。同会メンバーの二年生五人が描いたケーキや和菓子、パンなどをイラストにし三十点を提案した。クリームやあんなどで、中身の具やカラフルな飾りつけ「恋人」がイメージできるように細かく指定。雪だるまのパンや、猫とハート型の和菓子など商品化しやすく、作りやすい七点を試作、店側が仮の値段も示した。



試作品を手にする富岡東高ビジネス研究同好会メンバー＝阿南市内のホテル

試食後、▽中身の具に入る▽二種類あるパウンドイチゴのつぶつぶを入れ「ケーキは形が違うのだから

ら味や色を変えてほしい」などの意見が出たのを受け、それぞれの店が持ち帰り、改良を加えることにした。商品名もメンバーが考え提案する。

パンで二種類採用された米田沙記さん（一七）は「アイデアが採用されてうれしい。考えたものよりすごく良くできていた。値段も手ごろになりました。ぜひ恋人と食べてほしい」。

商品は十六日、聖地の銘板除幕式から販売を開始。山本理事長は「高校生や一般の意見を聞き、一店一品を目指して恋人の聖地を盛り上げていきたい」と話している。

「恋人の聖地」は、NPO法人・地域活性化センター（静岡県）が今年、プロポーズにふさわしい観光地として国内三十八カ所、海外一カ所を選定した。